



● Windows と Macintosh

を買いに行って店員の専門用語の説明が少しぐらいわからなくても「とりあえず頷いている」オジさんの一人なのです。

パソコンを買いに行く前にすることがあります。これがいわゆる精密検査です。これは読者、すなわち歯科医師を取り巻くさまざまなことをパソコンについてしっかり調べなければなりません。ですから歯周精密検査なのです。

まず、使う目的を探すことです。やりたいことを箇条書きにしてみましょう。とりあえずインターネット、年賀状作り、メール……将棋でも写真アルバムでもいい、ひとつだけでもいい「好きな道に辛勞なし」です。楽しいことから始めましょう。

つぎに、パソコンをやっている人を探しましょう。それも身近にいて、何でもいつでも聞ける人。同窓の後輩でも、娘でも、患者さんでもいい。筆者がまだ大学生だったころ、少年マガジンだったか、野球の連載マンガにあった「自分より優れたものを一つでも持っている者は皆“先生”である」というセリフを思い出しました。すなわちその人が子どもであれ、新人類であれ、パソコンについて自分よりよく知っていればその人は皆“先生”なのです。

幸いにして、われわれの職業は多くの人と接する仕事です。患者さんのなかにもきっと先生は存在します。素直に生徒になれる謙虚さと、あなたのために熱心に指導してくれるような人間関係を作ることがパソコンマスターの近道かもしれません。

最後に財布の中身もよく検査しておいたほうがいいかもしれません。

## OS (オーエス) って何?

パソコン購入にあたって最初に決めなければならないことは“どのOSにするか”です。OSとはオペレーションシステム、すなわちパソコンは機械、それを動



●画面上にあるツールをマウスで操作する(GUI)

かす基本的なシステムのこと。初心者向けとしてはWindows (ウインドウズ) と Macintosh (マッキントッシュ) の2つがあります。

前者は有名なビル・ゲイツ会長のマイクロソフト社の製品、後者はアップル社のソフト。ほとんどのソフトウエアはこの基本ソフトのうえで動くことになっています。仕事をするうえではそれほど違いはないが、大きな違いはマイクロソフト社はソフトメーカーであるがアップル社はソフトとハードウエア (パソコン本体) も作っていることです。今のように簡単になった入力システムは元はといえばアップル社が開発したOSによるもの、GUI(グラフィカルユーザーインターフェース) から始まっています。MacOSはその直感的な使いやすさや先進性が洗練されているので、デザイナーやアーティスト、フォトグラファー、医師、歯科医師、出版関係に多くのユーザーをもっています。

Windowsはソフトの豊富さや信頼性、価格の点で今では圧倒的なシェアを誇っています。また、レセコンソフトの多くはこのWindows環境で動きます。

どちらを選ぶかは自由ですが大切なことは、教えてくれる人と同じOSの機種を選ぶこと。ま、2つしかないからここで間違えることはありませんね。

熟年歯科医が新米だったころ、昭和40年代はまだまだ景気がよかった。電気屋に「一番いいのもってきて」といえば、とりあえずパソコンそのものは手に入りました。これからはしっかり検討してから決めましょう。

パソコンは半年で新しい機種が出ます。初めから機能満載の高性能マシン (ハイエンドマシン) を買ってはいけません。

ついでながら教えてくれる人よりよい機種を買わないこと。あなたが半年後にあなたの先生よりパソコンを使いこなすことはまずないからです。ただし、3年